

安比高原 ふるさと分校

2018年縮刷版

体験・分宿型修学旅行のご提案

- 安比高原ペンションビレッジ会とふるさと分校
- 修学旅行の受け入れについて
- 非常時対策マニュアル
- 対外連絡先表
- 会員ペンション

安比高原ペンションビレッジ会

<http://pv.appi-resort.com>

安比高原ペンションビレッジ会とふるさと分校

安比高原ペンションビレッジは北緯40度上の北東北の中心に位置し、東西200m、南北400mの範囲内に50数件（季節営業、休業中を含む）が立ち並んでいます。

1985年（昭和60年）第1期11軒のペンションのオープンを以って、安比高原ペンションビレッジ会の歩みが始まりました。

当初、2年間は親睦団体のオーナー会としてスタートし、第3期のオープンで計31軒となったのを機に、「会員・家族の親睦」と「営業活動」を目的に改組・改称し安比高原ペンションビレッジ（PV）会が発足し現在に至っております。

安比高原ふるさと分校は、安比高原ペンションビレッジ会（PV会）の修学旅行受け入れ組織とし受け入れに積極的な（体制を取れる）15ペンション（2018年6月現在）が参加しており、校長は、安比高原PV会代表が兼任、事務局をPアサンギに設置しております

安比高原PV会ペンションのオーナーを始めとするメンバーは、いろいろな職歴をもち、多趣味・多才で、達人的人間の集まりです。

それだけに、安比高原ふるさと分校がご提案する「**体験・分宿型修学旅行**」は、生徒さん、先生方にも、意外性のある、あらたな感動を体験する機会となるでしょう。

また各人趣味も多彩で、プロの腕を持つ者も多くおります。

趣味と仕事、そして、ペンション経営者としての幅広い経験と多くの人との出会いは、オーナー達の人間的面白みをさらに増してくれました。

プロとして（あるいはプロ並みに）磨きかけた腕を、生徒さんの体験学習指導に発揮し、さらに、安比高原ふるさと分校が強く提案する、ペンションオーナー夫妻（スタッフ）との『ふれあいタイム』は、趣味・仕事・人との出会い・人生観のほんの一部を聞くだけでこれまでにない世界を知り、趣味・仕事の一部と一緒に体験するだけで面白さと厳しさを知る機会に恵まれます。

いま、子供達に必要なことは、これまで育った世界と全く違った世界を知り、見ず知らずの人間の生き方を感じることはないかと思えます。

安比高原で新しい世界を垣間見た子供達が、人生の可能性をさらに高め、人間性を高めていくことを願いながら、我が子を見る思いで皆様をお迎えいたします。

修学旅行の受け入れについて

安比高原ペンションビレッジ会・安比ふるさと分校は、修学旅行受け入れに関し事故の未然防止の為次のような安全基準を設けてています。

1. ペンションビレッジの受入校は、原則として1日1～2校とする。
2. 宿泊受入ペンションは、受入人数に関係なく貸切とする。
3. 非常時には、宿泊受入以外のペンションが時間に関係無く支援する。
4. 食品衛生協会岩手支会安比分会への加盟及び講習会の参加。
5. 年2回の消防訓練の参加。
6. 宿泊約款の整備。
7. 旅館賠償責任保険等の賠償責任保険の加入。

また、2011年3月に発生した東日本大震災の教訓を基に新たな安全対策（非常時対策マニュアル）を設定し、不慮の災害に対して安全の確保に努めております。

安比高原ふるさと分校

◎ 安比ふるさと分校とは？

2001年、安比高原ペンション村のオーナー24人の参加で安比ふるさと分校は開校しました。

ペンション業界は一時、ペンションを利用するお客様のニーズに答えるべく、外観設備の豪華さを競い、派手な広告でそれをアピールする情報競争に巻き込まれました、また変なプロ意識に偏りすぎ、お客様との接点に見えない壁をつくり、楽をして仕事をこなそうとする意識があり、バブルが弾け、世の中の景気が落ち込むと今度は他との差別化を計るべく付加サービスの競争になりました。

そんななか私達は一生懸命話し合いをしました。

本来ペンションの持つ大切な部分とは何だろうか、開業するときに抱いていた気持ちはどんなだったろうかと、それは宿屋とお客の関係ではなく“人と人との心の交流”を思い出すことでした、幸いにも安比高原ペンション村は北東北の中心に位置しアクセスにも恵まれ、オールシーズン楽しめるリゾート地です。

おいしい空気とさわやかな風そして鮮やかな緑、そこに立つだけで大自然の体験が学習出来ることでしょう。

私達にとって生徒さんは子や孫のようなめんこい存在です、家族的な雰囲気の中かで一緒にたくさんの時間を過ごし、私達に心の原点を思い出させてくれます、そんな生徒さんには“こころのふるさと”になれるような思い出づくりのお手伝いができると思っています。

◎ イーハトーヴォ自然学校とのかかわり

八幡平国立公園の北部に広がる1200haの広大な土地に安比高原があります。そんな岩手の自然は広く奥深いといわれます、ナチュラルリスト宮沢賢治は理想郷イーハトーブと名づけました。

株式会社岩手ホテル&リゾートでは、1999年頃より体験メニューの開発に取り組み、2001年、その土地で体験を通じて「自然と人間の関係」、「地球環境を学ぶ場」を21世紀の子供達の未来に残すべくイーハトーヴォ自然学校は開校しました。

今大切なのは、かつて野や川での遊びから学んだ自然への不思議や驚き、尊敬、命の尊さを体験を通じて感じる事だとおもいます。

イーハトーヴォ自然学校はそのような観点から独自のプログラムを作り提供しています。

この恵まれたフィールドを舞台に自然と人間の関わりをテーマにした自然体験、スポーツ体験をはじめペンション村など周辺地域との強力体制による食、農業、生活文化交流体験など参加者との情報交換により希望のプログラムを提案できる体制を整えております。

ふるさと分校のオーナーの中にはイーハトーヴォ自然学校のフィールドパートナー、また体験プログラムのインストラクターとして、自然学校の全アイテムの約半数に参加し、体験者と接し交流を持ち自然との対話を楽しみながら、思い出作りのお手伝いをしています。

安比高原ふるさと分校の概要

安比高原ふるさと分校は、安比高原ペンションビレッジ会（P V会）の修学旅行受け入れ組織として、受け入れに積極的な（体制を取れる）15ペンション（2018年6月現在、P V会員20ペンション）が参加しており、校長は、安比高原P V会村長が兼任、事務局をPアサンギに設置しております。

地理的条件

安比高原ふるさと分校加盟ペンションは、安比高原ペンションビレッジ（安比高原P V）に点在しています。

安比高原P Vは、安比高原スキー場の裾野のひろがる、およそ東西200m、南北400mのエリアで、60軒のペンション・保養所があります。

行政区、岩手県八幡平市からの支援を受けております。

P Vエリアは、安比高原スキー場とホテル安比グランドなどを経営する、株式会社岩手ホテル&リゾートのリゾート管理部門「安比リゾートオフィス」が24時間体制で管理しております。また、施設の建設には、厳しいクライテリアが設定されており、ペンション・ホテル・保養所以外の建設はできません。したがって、P V周辺には、ペンション・ホテル以外の商店や飲食店はなく、最も近いコンビニまで、P Vエリアから直線2kmの距離があり、夜間、徒歩での利用はできません。

分校の体制

安比高原ふるさと分校は、修学旅行受け入れ体制を次のように定めています。

1. 安比高原ふるさと分校は、**原則として、1日1~2校受け入れ**とする。
2. **教師連絡用車両**として、車1台以上を提供する。
3. 宿泊受け入れペンションは、**受け入れ人数に関係なく貸切り**とし、他のお客との接触機会をなくした。

ペンションは、夫婦や複数のスタッフで運営されており、メンバーのほとんどが子育て終了、または子育て中です。生徒さんの受け入れについては、先生方とともに「わが子を見守る心」で接しております。ペンションでは、ホテル・旅館とはひと味ちがった、本当の意味での「ご父兄と同じ気持ち」で、優しく、時には厳しく、生徒さんのお世話をさせていただいております。

4. 引率の先生とオーナー夫婦・スタッフを含めた、「ご父兄と同じ気持ち」での**複数人管理体制**で、事件・事故を未然に防ぐ。
5. ペンションの**食事は、通常メニュー**とする。（修学旅行用メニューでの対応はしない）
6. 個々のペンションで対応しきれない事態が発生した場合に備えて、当日、修学旅行を受け入れていないペンションが非常事態に備え、人的補助体制（監視、移動応援、通信連絡応援）、代替宿泊など、**総力を挙げてバックアップ体制**をとる。具体的には、P Vエリアを2ブロックに分け、ブロック内、ブロック間で相互補完する。

7. 安比高原ふるさと分校加盟ペンションは、P V会モデル宿泊約款の適用。
8. 旅館賠償責任保険等の賠償責任保険の加入。
9. (財) 岩手県食品衛生協会岩手支会安比分会への加入と衛生指導等講習会の受講。
10. P V会・盛岡広域消防署共催の防火訓練(年2回)への参加が義務付け。

非常時の体制

安比高原ふるさと分校は、前述の通常時バックアップ体制に加えて、以下通りの非常時体制を取ります。

この体制は、岩手・宮城内陸地震や東日本大震災の教訓を基に、新たな安全対策として整えるものです。

地震の際、電話などの通信手段が使用できなくなり、エリアでの安全確認や学校・ご父兄への連絡に支障をきたしました。

前述の地震の際には、安比エリアでは次のことが確認されました。

- ① 光回線を利用した e-mail は使用可能であった。
- ② 地震直後の携帯電話からの e-mail は可能であった。

電話が使用できない場合の通信体制

1. 被害がない場合(軽度の場合)の、学校・ご父兄へ通信は、光回線により学校があらかじめ指定したアドレスへ e-mail を送る。
2. アリア内に2ヶ所ある公衆電話より、非常時伝言ボックスへ伝言する。
学校へは、あらかじめこの対応策を伝える。
3. 「安比リゾートオフィス」との協力体制のもとに、P Vエリア内の非常時連絡手段(第1次、第2次非難など)として、エリア内に2ヶ所ある松八幡平市防災無線の現地放送手段を使用する。
4. ペンションオーナーのアマチュア無線クラブを活用し、安比エリア内通信手段を確保する。

P V会内アマチュア無線人員による P V緊急通信周波数の徹底

- ・屋内設置無線機での交信可能範囲 (宮城県北部～北海道函館市)
- ・車載無線機での交信可能範囲 (岩手県北上市～青森県青森市)
- ・ハンディ無線機での交信可能範囲 (岩手県盛岡市～岩手県二戸市)

通信可能なエリアから、アマチュア無線のネットワークを活用し、必要な所への連絡を依頼する。

これらの実施指令は、P V会村長を長とする役員会(対策委員会)が、「安比リゾートオフィス」と連携を取りおこないます。

非難誘導

1. 軽度の場合は、各ペンションの自施設避難誘導と通常時バックアップ体制で行う。
2. 防災無線等で避難指示が出された場合、あらかじめ指定した第1次避難場所（テニスコート横彫刻広場）に誘導する。移動手段は徒歩を原則とする。
3. ペンションに帰れないなど被害状況に応じて、第2次避難場所(スキー場安比プラザ・スキーセンター)へ移動する。移動手段は、状況に応じ車両あるいは徒歩とする。
4. スキー場施設は、自家発電装置が完備している。安比エリアでは、エリア内停電が発生し、スキー場自家発電が稼働している場合は、第2次避難場所(スキー場安比プラザ・スキーセンター)へ移動する。移動手段は、状況に応じ車両あるいは徒歩とする。さらに、想定以上の被害の場合含め、行政・消防等関係機関との連携を密にし、関係機関の最終指示に従うこととする。
5. 修学旅行打ち合わせ時、到着時に、第1次避難場所まで説明する。
6. 1人当たり 1～2 Lの飲料水を常備する。
7. お風呂のお湯は、翌朝まで確保する。

災害の規模により、エリア全体で相応の対応をとることとする。

食品衛生

安比高原エリアは、(財)岩手県食品衛生協会の中で唯一、町村単位を越えて設立された分会であり、全国的にもめずらしい存在です。

エリア内には、(財)岩手県食品衛生協会岩手支会理事が3人、食品衛生指導員が5人おり、いずれもPV会会員・株式会社岩手ホテル&リゾート社員です。

(財)岩手県食品衛生協会岩手支会の指導員部会長・副部会長ともに安比分会より選出されております。

これらのことから、エリアとしての食品衛生への取り組み姿勢が高く評価されています。

安比分会独自の食品衛生講習会、指導員による査察、衛生相談など活発に活動しており、

安比エリアのペンション・ホテルからは、いまだかつて、食中毒などの事故は出していません。

地域との関わり

安比高原PV会は、地域とも積極的に関わっております。
会員は、各種団体に活躍しており、前述の食品衛生協会理事のほか、
財団法人 八幡平市観光協会・八幡平市商工会
をはじめ、各種団体などのボランティア活動へも活発に参加し、地域との協調を図っています。

多才な人材

安比高原PV会ペンションのオーナーを始めとするメンバーは、いろいろな職歴をもち、
多趣味・多才で、達人的人間の集まりです。
それだけに、安比高原ふるさと分校がご提案する「体験・分宿型修学旅行」は、生徒さん、
先生方にも、意外性のある、あらたな感動を体験する機会となるでしょう。

<いろいろな職歴>

広告カメラマン、ホテルマン、電子オルガン技術者、航空エンジン整備士、
コーヒー店経営、システムエンジニア、魚屋、不動産管理士、調理師、バーテンパー
出版デザイン、教師、保母、主婦 などなど

それぞれの趣味も多彩で、プロの腕を持つ者も多くおります。
趣味と仕事、そして、ペンション経営者としての幅広い経験と多くの人との出会いは、
オーナー達の人間的面白みをさらに増してくれました。

プロとして（あるいはプロ並みに）磨きをかけた腕を、生徒さんの体験学習指導に発揮し、
さらに、安比高原ふるさと分校が強く提案する、ペンションオーナー夫妻（スタッフ）との
『ふれあい交流の時間』は、趣味・仕事・人との出会い・人生観のほんの一部を聞くだけで
これまでにない世界を知り、趣味・仕事の一部と一緒に体験するだけで面白さと厳しさを知る
機会に恵まれます。

いま、子供達に必要なことは、これまで育った世界と全く違った世界を知り、見ず知らずの
人間の生き方を感じることはないかと思えます。
安比高原で新しい世界を垣間見た子供達が、人生の可能性をさらに高め、人間性を高めて
いくこと願いながら、我が子を見る思いで皆様をお迎えいたします。

連絡先

【官公署】

八幡平市役所	0195(76)2111	八幡平市大更 35-62	車 20分
岩手警察署八幡平幹部交番	0195(76)2011	:	:
安代総支所	0195(72)2111	八幡平市吠田 70	車 20分
盛岡中央消防署安代分署	0195(72)3119	: 吠田 109	:
岩手警察署安代交番	0195(72)2315	: 清水 213	:
赤坂田郵便局	0195(72)5100	: 赤坂田 204	車 10分
松尾総支所	0195(74)2111	八幡平市野駄	車 15分
盛岡中央消防署松尾分署	0195(74)2119	:	;
岩手警察署松尾駐在所	0195(74)3011	:	:
松尾郵便局	0195(74)3013	:	:

【病 院】

国民健康保険安代診療所	0195(72)3115	八幡平市荒屋新町	車 20分
平館クリニック (外科)	0195(74)3120	八幡平市平館 1 1	車 20分
畠山内科クリニック	0195(75)2355	: 田頭 3 7	車 22分
森整形外科	0195(76)2318	: 大更 2 5	車 25分
国民健康保険西根病院	0195(76)3111	: 田頭 2 2	車 25分
吉田内科呼吸器科医院	0195(76)1100	: 大更 2 1	車 25分
瓜田外科胃腸科医院	0195(76)3220	: 大更 2 1	車 25分
東八幡平病院	0195(78)2511	: 柏台 2-8	車 20分
岩手医科大学 高次救急センター	019(651)5111	盛岡市内丸 1 9-1	車 60分

【インフルエンザ対応】

県央保険センター	019(629)6573	PM 5時半まで	
県保健衛生課	019(629)5466	24時間対応	

対応の仕方

患者（疑患者）が発生したら幹事P（学校側）へ連絡し名前、容態を報告する、幹事Pは上記センターか衛生課へ電話で容態を報告し最寄の適した病院を指示し連絡を入れてもらい病院へ確認後、搬送する。

配宿Pや幹事Pは直接病院へは連絡しない事。

ふるさと分校宿泊参加会員ペンション

(2018年 6月現在)

	ペンション名	客室	定員	電話番号 (0195)	FAX番号 (0195)	
1	STEP	11	38	(73) 5225	(73) 5224	
2	森のなかまたち	6	20	(73) 5569	(63) 3055	
3	アーベント倶楽部	7	18	(73) 5166	(73) 5586	
4	アーラワッカ	7	21	(68) 7732	(68) 7742	
5	アサンギ	11	29	(73) 5939	(73) 5165	事務局
6	アネックス・アルカス	8	28	(68) 3838	(68) 3727	
7	あるべじお	7	24	(73) 5750	(73) 5424	
8	ボーゲンハウス	11	28	(73) 5170	(73) 5369	
9	グラシラスエスタバ	8	27	(73) 5904	(73) 5037	
10	サンダーパパ	11	25	(73) 5241	(73) 5971	
11	スターダスト	9	25	(73) 5132	(73) 5134	
12	ライフイズビューチフル	7	21	(68) 7458	(68) 7458	
13	みわ	6	24	(73) 6888	(73) 6881	
14	アースカラー	11	42	(68) 7656	(68) 7458	
15	ウイングライト	9	29	(73) 5226	(73) 6834	
	15軒	129	399人			